

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価

園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターにじいろ

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和8年2月12日 10:00 ~11:00 (もいもい)

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

わたっていいな あなたもいいね じぶんできめる みんなのために

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した

こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和4年4月に開園した子育てセンターにじいろは、袋井市の公立3園を統合民営化し幼保連携型認定こども園となり今年4年目を迎えました。にじいろに通ってくる一人ひとりが当園の教育・保育目標「わたっていいな あなたもいいね じぶんできめる みんなのために」のもと、わたっていいなと思える気持ちを大切に、子どもにとって、職員にとって、尊厳を守った保育と4つの承認（存在・意欲・行動・成果）を実践してまいります。今年度の重点目標は教育・保育目標の中から『じぶんできめる』としました。それは、乳児から幼児まで一人ひとりの意志を聴くことが承認へとつながり、自己決定ができる、その子が主人公となる生活ができる（自己肯定感を育む）子を目指してまいります。職員の取り組みとしては、子どもたちの主体性な遊びの連続性について学びを深めるために昨年に続き『わらべうた』の研修を深め、それを保育実践に活かしてまいります。子どものつぶやきや姿をよく観察しそれを活かした環境を整えることで、次の活動へつながり、にじいろの活動が楽しみになる保育を創ってまいります。にじいろの保育の質の向上となるよう、よりよい教育・保育の実践を展開していきたいと考えています。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	○グランドデザインは目にする機会が多く何度も内容を確認しているため、理解している。 ○「じぶんできめる」という重点目標は各年齢において子どもの姿がイメージでき、主体的な姿へと結びつけることができた。 ○期毎振り返りシートに記入をし、目標を意識することができた。 ●目標の理解はしているが、日々の忙しさから意識が薄くなるがあった。	4	・4月にグランドデザインなどの説明があった。 ・七夕の製作で「じぶんできめる」姿を見た。職員が一人ひとりの気持ちを尊重していた。 ・リズムで「やらない」という選択も認めていた。 ・子どもの「やりたい」という気持ちを上手に引き出していると思う。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	○保育室だけでなく廊下や多目的な空間にも季節にあった環境設定を行い、子どもの興味関心を広げることができた。 ○計画的にわらべうたあそびを実践し異年齢の関りを深めた。 ○職員研修の学びを実践につなげ、ランチタイムを導入したことは、子どもの主体的な姿を育む取り組みとなった。 ●指導計画はPDCAを意識し、教育・保育のつながりを意識することが課題	4	・年長児の娘がランチタイム制を「楽しい」と言っている。 ・異年齢の関わりが持てている。 ・リスク（皿が割れる）もある中、新しく取り組んだ。学ぶことが多いと思う。 ・子どもを信じていないと委ねられない。「じぶんできめる」という子どもたちを、職員が信じているからできると思う。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<p>○子ども、家庭、地域などそれぞれの多様性を受け入れることで、偏見や差別なくありのままを認める関わりができています。</p> <p>○地域の学校との交流活動が活発で、いろいろな世代の方と触れ合い、子ども達にとって関りを広げる機会となっている。</p> <p>○にじいろでたくさん子ども達が過ごす事は、多様な関りがあり思いやりや感謝の気持ちが自然と育まれている。</p> <p>●地域の自然環境に理解を深め、散歩に活用できるようにしたい。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな交流を図り、様々な成長が見られた。 ・雲梯を頑張っている息子の姿を褒めてくれた。集団遊びに誘ってくれた。参加する時は「じぶんできめる」で良いことを伝えてくれている。 ・息子が防災訓練で学んだことを家で話している。 ・遊びのタイミングが違うから、ランチタイム制になったことを息子は喜んでいる。 ・小さい子と関わることや、高校生との交流は家ではできない経験であり、刺激になっている。 ・充実していて、十分楽しんでいると思う。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<p>○行事の様子（写真）をタイムリーに玄関掲示することで、親子の会話のきっかけになったり、保護者が園の様子を知る機会になっていると感じる。</p> <p>○職員は、懇談会や面談、登降園時など、できるだけ多くの保護者に子どもの様子が伝えられるように意識している。</p> <p>○園の様子を伝えられるように、毎月ブログの発信を欠かさない。</p> <p>●保育者の知識として発達段階を理解し、分かりやすく保護者へ伝えることに課題がある。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・登園の際、連れて来ることが大変だが、先生方の笑顔、挨拶に救われる。 ・職員間の情報共有がしっかりできています。 ・子どもを預ける親としては安心感でいっぱい。信頼している。 ・愛情を持って関わってくれている。 ・「職員が相談を受けた際、保護者に納得してもらえる話の仕方を身につけたい。知識を深め理解してもらいながら話を進められるよう、資質の向上へ繋げたい。」という話を聞き、期待を込めて3にする。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<p>○小学校だけではなく、中学校、高校、専門学校、特別支援学校との交流が増え地域の園として定着してきていると感じる。また、ボランティア等で園を訪ねてくれる地域の方も増えている。</p> <p>○今年度、支援の「出張ひろば・にじのたね」が始まり、園のある地域だけでなく活動の場を広げている。</p> <p>●支援利用親子と園の子どもが関わる機会が増えるとよいと感じる。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり地域に根付いてきた。 ・小学校に来てくれることが多かった為、小学生になるという憧れを持つことができたと思う。繋がりが年々濃くなったと感じる。 ・「支援センターは0歳児の参加が多い。意識が高い方が多い。手作り玩具で遊ぶことは家庭ではできないこと。今年度は4カ所の出張ひろばを行っている。また子育て相談も受けている。携帯で調べれば分かることもかもしれないが、保育士としての知識を伝えている。」という話を聞き、地域に開かれている園ということが分かる。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<p>○春・秋の職員全体研修に参加することで情報共有や知識習得ができ学びを深められている。</p> <p>○職員間の対話を多くすることで、それぞれの得意分野を活かしながら連携して保育を進めることができています。</p> <p>○にじいろの設備のよい恵まれた環境で気持ちよく仕事ができている。環境整備も常に意識している。</p> <p>●自らの学びを深めるための時間確保が難しい。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室、園庭がいつもきれいで、整備をしてくれている職員がいる。 ・職員間の報連相ができています。 ・息子が伝統的な遊び（羽根つき）をしたことを話していた。先生の手作りだと聞いて、調べて作ったことが伝わった。 ・接遇マナーの研修を受けている。一通りのことは網羅されていると思う。 ・長男、長女は高南幼稚園でトイレスリッパを揃えることを丁寧に教わった。整理整頓を意識してほしい。